

統計スポット情報

No. 165

22. 1. 29

福井県総合政策部政策統計課

— 福井の食生活あれこれ —

冬は風邪などで体調を崩しやすい季節あり、食事による栄養補給が重要になります。そこで、今回は福井の食生活に関するデータを集めました。

福井で人気の食材は？

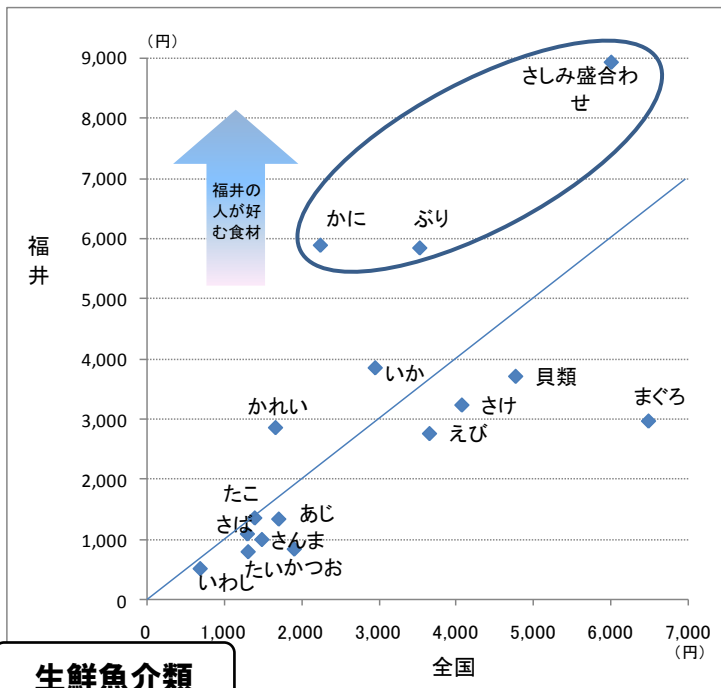


福井の人が好んで買う食材は何でしょうか。

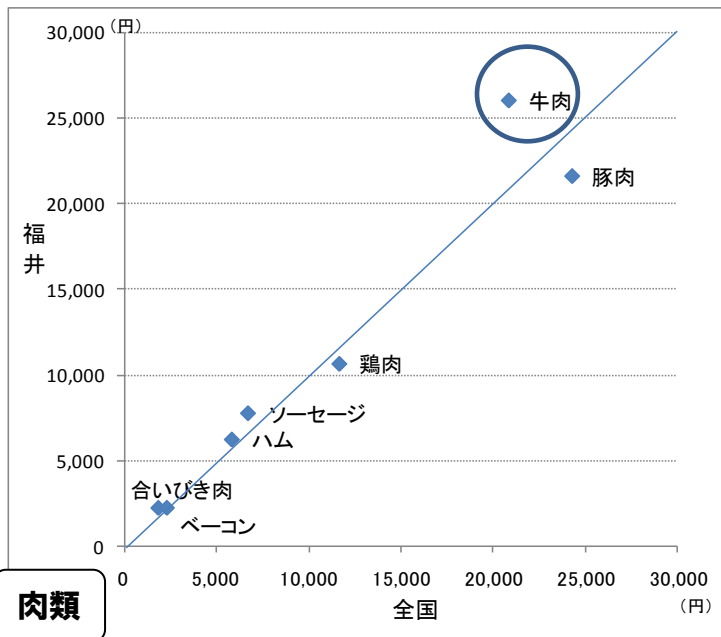
ここでは総務省と福井県が行った家計調査の結果を使って比較してみました。この3つの図は、福井市と全国の1世帯当たりの食品別年間支出金額をグラフにしたものです。各グラフの斜線より上にあるほど、全国と比べて福井の人がお金をかけている食材です。それらが福井の人の好きな食材と考えられます。

【福井で人気の食材】

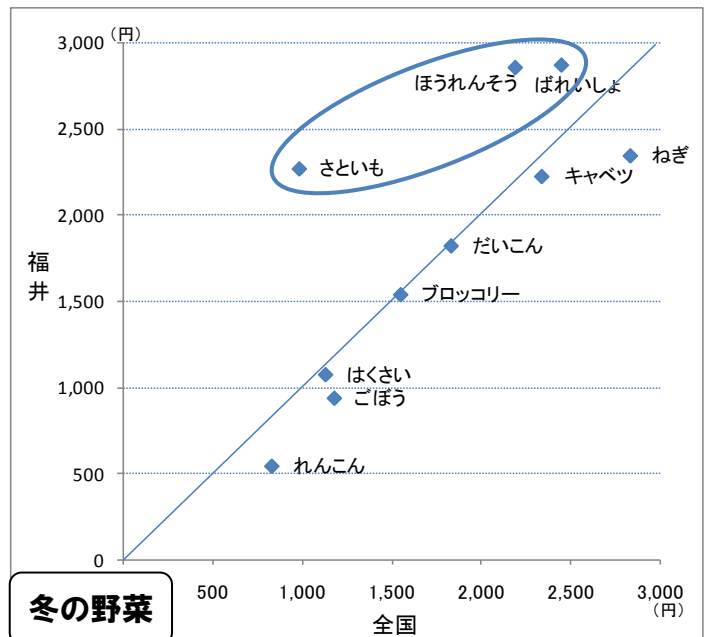
生鮮魚介類：かに、ぶり、さしみの盛合わせ
肉 類：牛肉
冬の野菜：さといも、ほうれんそう、ばれいしょ



生鮮魚介類



肉類



冬の野菜

出典：総務省 家計調査(H18～H20)

- ・家計調査の食料関連の項目のうち、生鮮魚介類、肉類、野菜の中から主な品目を取り上げました。(野菜については、冬(12月～2月)に食べられる野菜から主なものを取り上げました。)
- ・金額はいずれも二人以上世帯1世帯当たりの品目ごとの年間支出金額のH18年～20年の平均値です。

福井市の1世帯当たり年間支出金額（H18～H20 平均値） 全国1位品目一覧

品目	福井(円)	全国(円)	対全国比
さといも	2,271	982	2.3
油揚げ・がんもどき	7,136	3,317	2.2
やきとり(*1)	3,727	1,870	2.0
カツレツ(*2)	2,999	1,667	1.8
天ぷら・フライ(*3)	13,549	8,538	1.6
コロッケ(*4)	2,943	1,921	1.5
さしみ盛合わせ	8,936	6,013	1.5
ふりかけ	2,192	1,493	1.5
<参考>			
主食的調理食品(45位)	35,763	41,086	0.9
他の調理食品(1位)	86,670	59,374	1.5

出典：総務省 家計調査(H18～H20)

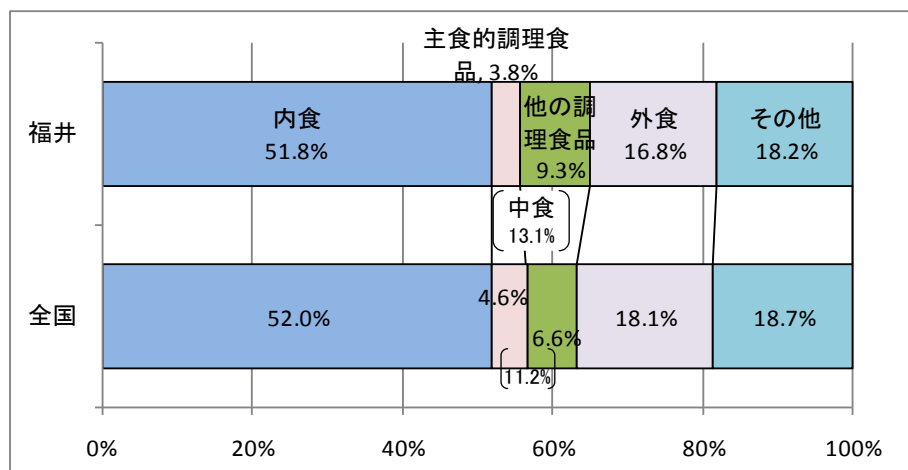
<福井風食事例>

- ①家で炊いたご飯（好きな方はふりかけも）
- ②さといもの煮っ転がし ③油揚げ（薄揚げ）の入った味噌汁
- ④やきとり、カツレツ、天ぷら、フライ、コロッケ、さしみ等をお好みで組み合わせるのが福井風と言えるかもしれません。皆さんのお宅ではいかがでしょうか。

食料費から見た食事の形態

では、実際に食生活の形態を右の3つに分けて、福井市と全国とを比較してみましょう。下のグラフは家計調査の食料関連の品目を次のとおり分類し集計したものです。

- ・穀類、野菜・海藻、魚介類、肉類等の食材 ⇒ 「内食」
- ・調理食品（主食的調理食品 + 他の調理食品）⇒ 「中食」
 弁当、おにぎり、すし(弁当)等 惣菜、冷凍食品等
- ・外食⇒「外食」 ・菓子類、飲料、酒類⇒「その他」



出典：総務省 家計調査(H18～H20)

総務省では、家計調査の結果をもとに二人以上の世帯1世帯当たりの品目別支出金額の都道府県庁所在市別ランキングを作成しています。左の表はこれの中で食料関連約250品目のうち、福井市の支出金額が1位になったものです。

*1～*4に調理食品が並んでいますが、これらは、弁当・おにぎり等の主食的調理食品に対し、他の調理食品に分類されます。他の調理食品では主な11品目中、実に4品目で福井市は全国1位となっています。また他の調理食品全体でも1位です。

なお、さしみ盛合わせは生鮮魚介類、ふりかけは調味料に分類されますが、これらもご飯と一緒にすぐ食べられるという点では似ています。

このことから、福井では、おかずとして調理食品等を買ってきて、家で炊いたご飯に添えて食べるタイプの「中食」が多いことがうかがえます。

<食事の形態>

外食：レストランや飲食店で
食べること

うちしょく、ないしょく
内食：手作りの家庭料理を食べること

なかしょく
中食：外部で調理された惣菜や弁当などを持ち帰って
食べること

※「中食」という言葉は、コンビニエンスストアが定着した1980年代ごろから、「外食」と「内食」の間に位置づけられるものとして、使われだしたようです。調理の手間がかからず、価格も「外食」より手頃という特徴があります。

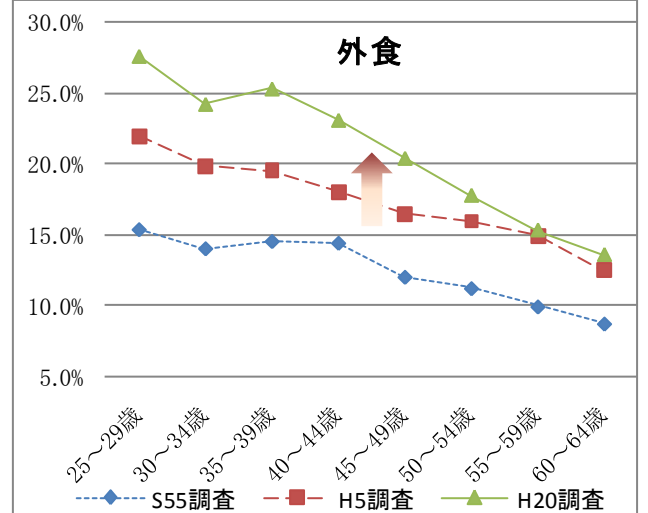
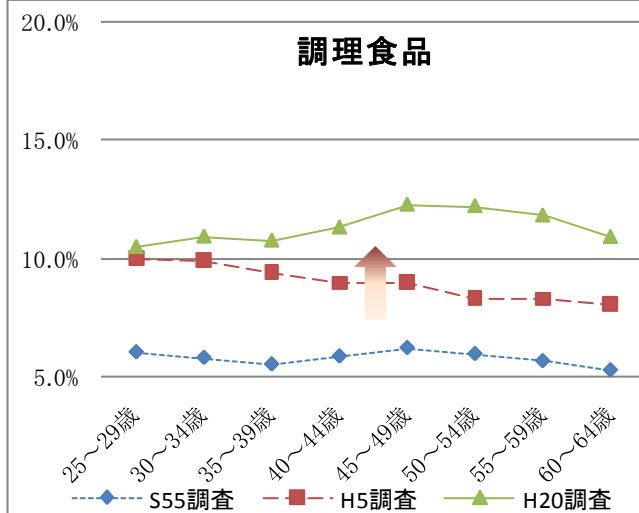
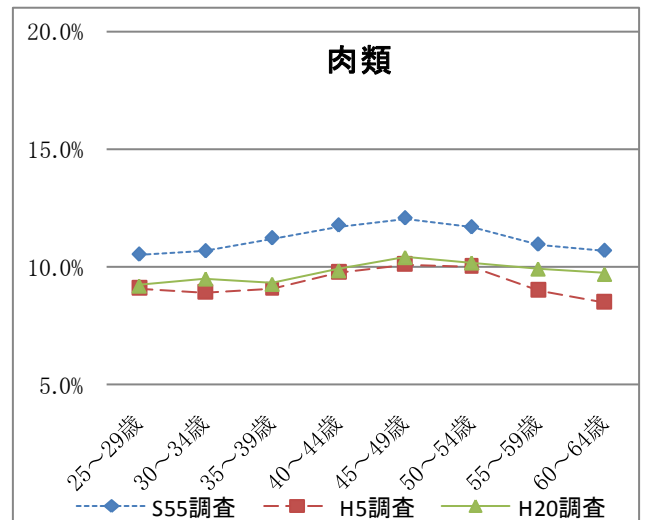
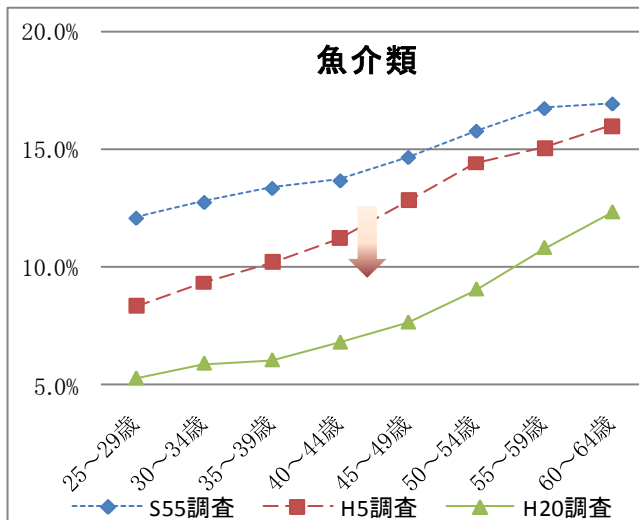
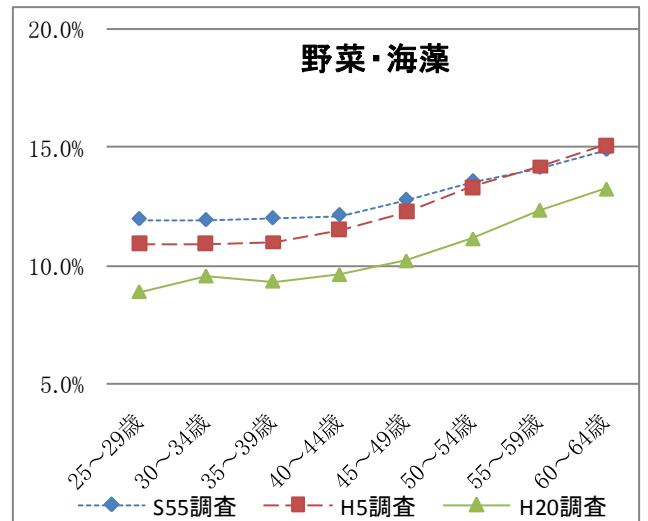
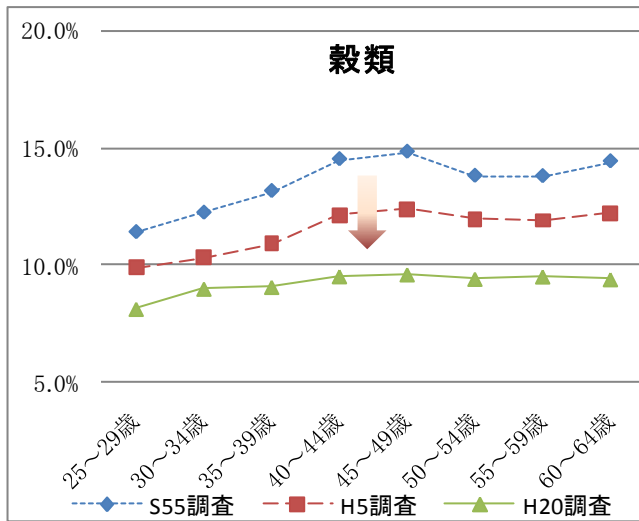
福井は全国と比較して「中食」（特に他の調理食品）の割合が多くなっています。

なお、「内食」については全国とほぼ同じですから、家で調理する割合が特に低い（手を抜いている）というわけではありません。

世帯主の年齢階級別に見た 世帯の食事

全国でみると、世帯主の年代によって食事の形態に違いがあるのでしょうか。

世帯主の年齢階級別に、家計の食料支出に占める割合を、いくつかの項目について見てみましょう。



出典:総務省 家計調査 (S55, H5, H20)

以前と比べ、穀類と魚介類の支出割合が小さくなり、調理食品と外食の支出割合が大きくなっています。世帯主の年齢で比べると、世帯主の年齢が高くなるほど、魚介類の支出割合は大きく、外食の支出割合が小さくなっています。

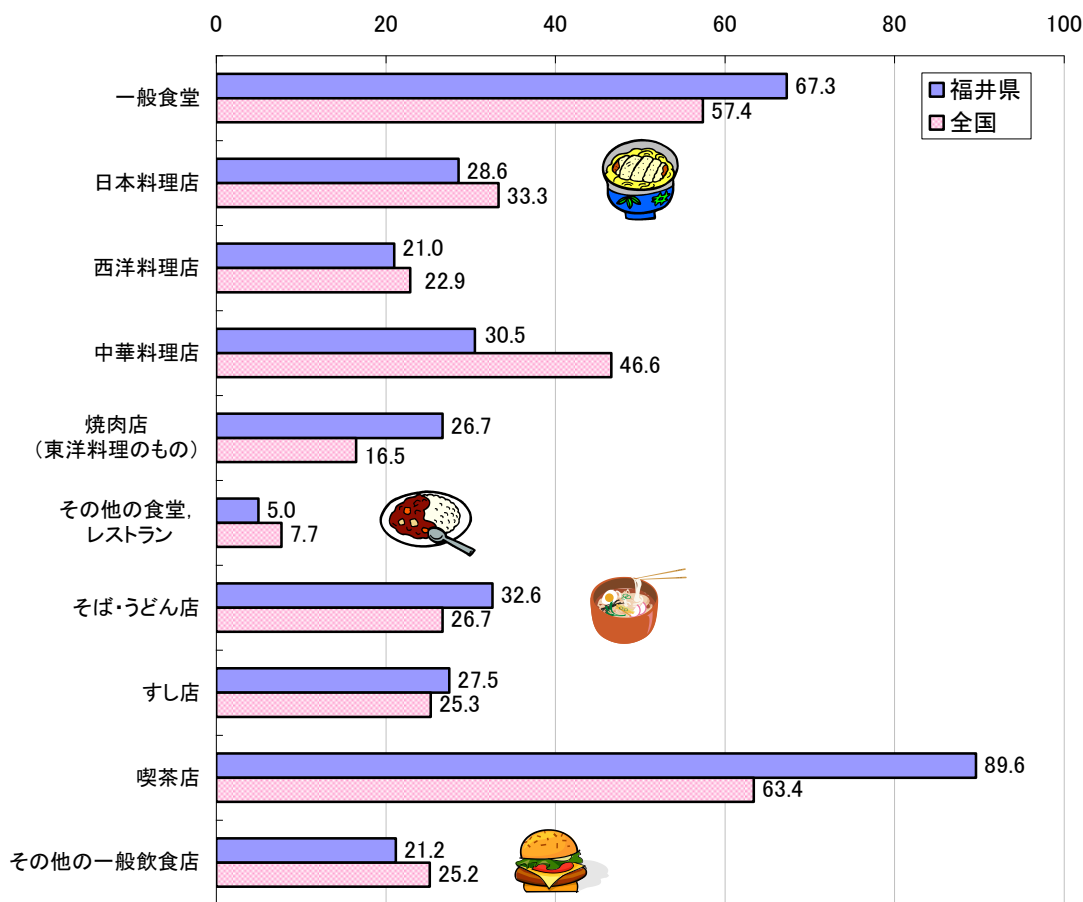
家庭での米や魚中心の手作りの食事（内食）から、若い世帯は外食へ、年配の世帯は調理食品（中食）へという傾向があります。

福井に多い飲食店は？

近年は外食の支出割合が大きくなっていますが、福井県にはどのような飲食店が多いのでしょうか。福井の飲食店について見ていきましょう。



人口10万人あたりの民営事業所数



○飲食店分類の例

一般食堂	定食屋、ファミリーレストランなど
日本料理店	懐石料理店、とんかつ料理店、牛丼店など
西洋料理店	フランス料理店、イタリア料理店など
中華料理店	ラーメン店、餃子店など
その他の食堂、レストラン	カレー料理店、エスニック料理店など
その他の一般飲食店	お好み焼屋、ハンバーガー店、甘味処など

出典：総務省 平成18年事業所・企業統計調査

人口10万人あたりの事業所数を全国と比較してみると、飲食店全体では福井県が350.1事業所、全国では325.2事業所と、全国より多くなっています。飲食店別に見ると、福井県では一般食堂、喫茶店、そば・うどん店、焼肉店（東洋料理のもの）などが多いことが分かります。焼肉店は26.7事業所で全国より6割程度多くなっています。一方で、中華料理店は30.5事業所と、全国の7割程度になっています。